

「新たな年を迎え 海部地域の農業の発展に向け」



新春の候、皆様におかれましては健やかな新年をお迎えとのこととお慶び申し上げます。また、日頃より、農業改良普及課の業務に御理解と御協力をいただき、心より感謝を申し上げます。

去年は、異常気象や病害虫の発生、資材や燃油価格の高騰など農業を取り巻く環境が一層厳しさを増してまいりました。それもかかわらず、皆様が海部地域の農業を支え、守り、前へ進めてくださったことに、深い敬意を抱いております。私自身、日々の業務に取り組む中で多くを学ばせていただきました。

海部地域は肥沃な土壌と豊富な水資源に恵まれ、多くの可能性を秘めています。その恵みを生かし、持続可能で魅力的な農業を次世代へつなぐためにも、地域全体で連携し、創意工夫を凝らしていきましょう。

今年巳年、蛇は「脱皮」の象徴とも言われ、新しい変化や成長を迎える年ともされています。この節目の年に、農業改良普及課といたしましても、皆様と力を合わせて蛇のような柔軟さで普及活動を進め、海部地域の農業の発展に取り組んでまいりますので、御理解と御協力をお願いいたします。

海部農林水産事務所農業改良普及課 課長 田中智香

イネカメムシ撃退に成功 適切な防除により被害を抑えることができました

本年のイネカメムシの発生は、「あきたこまち」が出穂を迎える7月初旬頃から本格的に確認されました。この頃のイネカメムシの発生量は、去年の同時期よりも大量であり、かつ広域に発生していることが確認され、被害が強く懸念される状況でした。

これを受けJAや関係機関と協力して、イネカメムシの発生地区の把握とともにリアルタイムで生産者へ警戒を呼びかけました。また、①効果の高い薬剤を選定すること、②「出穂期」と「出穂期10日後」の2回の適期防除を徹底することを呼びかけ、多くの生産者で効果の高い薬剤を用いた2回防除が実施され、被害を抑えることができました。

昨年、最もイネカメムシの被害が大きかった十四山地区では、去年の被害を鑑みて同地区全体でラジヘリによる2回の共同防除を実施した結果、イネカメムシの発生を抑え込むことに成功し地区全体の平均単収は昨年比159%（JAの荷受けデータより）と大幅に増収しました。本年は米価が高く推移していることから、イネカメムシの適切な防除は生産者の経営安定に大きく寄与しました。

しかし本年は防除に成功したものの、イネカメムシは依然として地域の水稲作の脅威となる存在です。去年の被害を忘れることなく、農業改良普及課では引き続きイネカメムシ対策を支援していきます。



「あきたこまち」に大量発生したイネカメムシ



防除後に水面上に落ちたイネカメムシの死骸

新たに農業経営士、農村生活アドバイザーになられた皆様

令和6年11月21日(木)の認定式において、新たに4名が愛知県知事から認定されました(敬称略)。
今後の御活躍を御期待申し上げます。

農業経営士

農村生活アドバイザー



三輪聡広(愛西市)
施設園芸
農業経営士として地域の農業を盛り上げ、後継者育成に頑張ります。



加賀 豊(弥富市)
施設園芸
消費者に買ってよかったと思ってもらえるトマト栽培を頑張ります。



三浦智也(弥富市)
施設園芸
農業経営士として地域農業の発展と後継者の育成に尽力します。



鈴木裕美(愛西市)
露地野菜
交流を通して知識経験を深め、次へと繋げられるよう努力します。

加藤與志和氏(蟹江町)が「農事功績者表彰(緑白綬有功章)を受章

令和6年11月14日、(公社)大日本農会主催の令和6年度農事功績者表彰式にて、蟹江町の加藤與志和氏が緑白綬有功章を受章されました。加藤氏は、栄養性花き品目に特化した高品質・省力化栽培技術の構築、地域の花きの生産振興への貢献、県農業経営士協会会長(全国指導農業士連絡協議会副会長を兼務)として農業振興への尽力等の功績が認められ、受章となりました。

また、12月19日に所属する「蟹江町花き部会」の情報交換会で受章を報告し、部会から記念品料を贈呈されました。加藤氏は挨拶で「この受章は、蟹江花き部会の先輩たちが築いてきた実績の上に頂けたものと感謝している。祝賀パーティでは(公社)大日本農会総裁の秋篠宮皇嗣殿下から、『ポインセチアはマダガスカルの花でしたな』と言葉を頂戴し、殿下の花への博識と関心の高さを感じた」、とのエピソードを披露されました。



蟹江町花き部会員に受章を報告する加藤與志和氏

野菜類(施設栽培)のコナジラミ類防除に微生物農薬の活用を

コナジラミ類は多くの品目に寄生し、吸汁加害による生育抑制と、排泄物にすすが発生することによる葉や果実の汚れ、病原ウイルスの伝染などを引き起こしますが、近年、農薬の感受性低下で防除が困難になってきています。特にトマト類ではタバココナジラミが媒介する黄化葉巻病による被害が深刻です。

そのため、農業改良普及課では、トマトにおける微生物農薬を活用したコナジラミ類防除の実証を行っています。「ボタニガード水和剤(ポーベリア バシアーナ水和剤)」は、糸状菌を主成分とし、コナジラミ類などにこの菌が感染することで効果を発揮します。薬剤感受性低下も起こりにくいとされています。

この剤は、使用方法に散布の他、トマト、ミニトマトにおいて「ダクト内投入」の登録があり、ダクトに投入して送風することで省力的に処理できます。一部の生産者で、冬前や春先の防除効果を高めたい場面での活用を進めています。

微生物農薬は効果が現れるのが遅く、微生物の活動条件にも左右されるため、成分の微生物の特性を理解して使用することで、防除効果を上げることができます。このため、殺菌剤の混用、有用生物の利用では制限があります。

詳しくは、農業改良普及課までお問い合わせください。また、販売元のホームページでも確認できます。



タバココナジラミ成虫
(愛知県農業総合試験場 提供)